

平成 29 年度

自己点検・評価報告書

学校法人 MGL 学園

太田動物専門学校

自己点検・評価委員会

平成 30 年 7 月 25 日

1. 学校の現況

学校名 学校法人MGL学園 太田動物専門学校
所在地 群馬県太田市台之郷町 1060-1
設置学科 商業実務専門課程 ペットビジネス学科

文部科学省の認定 職業実践専門課程
厚生労働省の認定 専門職業教育訓練

2. 学校の特徴

- ①群馬県内のペット業界の要望に応じて、群馬県初の動物専門学校として設立
- ②ペット業界の代表団体である全国ペット協会と連携して、ペット業界が求める人材を育成しようと努力していること
- ③ペットショップ等の学園附属実習施設を持ち、実践的な実習・演習を行っていること
- ④卒業生のペット業界へ就職する割合が高いこと。卒業生でこの分野の有名人を輩出していること
- ⑤世界のトッププロが学園に来学し講演等をおこなうので、世界のトップの技術及び人間性に学生が直に触れることができること

3. 学校の教育理念・目標

基本精神

「共存共栄」

Mission (使命)

「業界に必要とされる人材を輩出し、動物業界の発展・繁栄に寄与する」

行動指針

「M」 マナー…礼儀正しさ

「G」 グリット…やり続ける能力

「L」 リーダーシップ…思いやり・模範を示す

教育目標

「利他の人」…人の役に立つ人材に

「積極的な人」…自ら考え行動できる人に

「夢を持つ人」…専門性を生かし活躍できる人に

4. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 個人情報保護に対する取り組みの強化
2. 情報セキュリティ管理の徹底
3. 特色ある授業の積極的な展開
4. 教員等採用・育成計画
5. オープンキャンパス等、生徒募集強化策の実施
6. 安全管理の強化
7. 合同企業就職説明会開催による就職支援の強化
8. 群馬県動物愛護センターへのボランティアスタッフ派遣
9. 節電への取り組み
10. 専門職大学制度の検討
11. 分野別評価を含めた第三者評価の実施

5. 評価項目の達成及び取組状況

【評価の判定】 特に優れている 5 優れている 4 適切 3 やや不適切 2 不適切 1
--

[1] 目的・目標の設定および入学選抜

評価項目	評価
1-1 学校の目的・目標において、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等が、適切かつ明確に定められているか。	5
1-2 学校の目的・目標が、構成員（教職員および学生）に周知され、社会に広く公表されているか。	4
1-3 学校の目的・目標に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針が明確に定められ、公表、周知されているか。	5
1-4 入学者受入方針に沿った学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が、適切な実施体制により公正に実施されているか。	4
1-5 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていないか。その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	4

(優れた点)

①学校の目的に基づき、愛玩動物の具体的な事業（仕事）に分けたコース設定をしているので、何を目的にした学校か明確なこと。

②学校の目的を実現するための行動指針がMGLという学校法人名になっているので、この上なく広く周知しやすいこと。

③学校の目的と入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が合致していること。

④少子化により、入学者数が減少したり募集停止に追い込まれる学校がある中、本校は安定した入学者数を確保でき、実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。

(改善を要する点)

学校の目的や教育目標を学校案内や説明会で周知するだけでなく、校内にも掲示したほうが良い。

(自己評価概要)

本校は、「愛玩動物産業の事業者を養成(育成)すること」を目的とし、ペットビジネス学科を設置している。その中で、動物看護コース・プロトリーマーコース・ドッグトレーナーコースという愛玩動物産業（ペット業界）の具体的な事業（仕事）に分けたコース設定をしているので、どのような人材を育成する学校か明確である。また、このコース設定は、ペット業界が求める人材と合致しているため、職業実践的な教育に適したものとなっている。

さらに「共存共栄」という基本精神は勿論、これを実現するためのMGLという行動指針は学校法人名にもなっているため、広く周知されている。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）をAO入学要綱に、出願資格を学生募集要項に明確に記載して広く募集活動を行っているため、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が適切に実施されている。

実入学者数については、近年は少子化の影響もあり、全国的に動物系の専門学校への入学者数が減少しており、本校も入学定員を下回るようになった。しかし、定員の数も適正であり、実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっている。群馬県という人口の少ない県の学校ながら、ペット業界への就職を希望する多くの学生に支持された、人気の学校である。

[2] 専修学校設置基準および関連法令との適合性

評価項目	評価
2-1 教員組織および職員組織の編制のための基本的方針を有しており、それに基づいた教職員の採用および組織編制が行われているか。	4

2-2 教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、専門分野に関し教育上の指導能力があると認められる専任教員が、関係法令が定める数以上置かれているか。	4
2-3 授業科目（課目）が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。教育課程の編成や教育内容が、学生の多様なニーズ、関係業界の発展動向、社会からの要請等を反映したものになっているか。	4
2-4 学生の履修に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。ひとつの授業科目（課目）について同時に授業を受ける学生数が、授業の方法および施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられるような適当な人数となっているか。	4
2-5 学生の履修指導および学習相談・助言が、学生の多様性（履修歴や実務経験の有無等）を踏まえて適切に行われているか。	4
2-6 教育課程に対応した施設・設備（図書、視聴覚資料その他の教育上必要な資料を含む）が整備され、有効に活用されているか。	5
2-7 学生支援の一環として、学生がその能力および適性、志望に応じて、主体的に進路を選択できるように、必要な情報の収集・管理・提供、ガイダンス、指導、助言が適切に行われているか。	5
2-8 特別な支援が必要と考えられる者への学習支援、生活支援等の実施体制が整備されているか。	4

(優れた点)

①本校は専修学校設置基準および関連書法令等が定める要件を上回る教員数・校地校舎の面積・施設等を有しており、当然、動物看護師統一認定機構の基準にも適合している。さらに、動物の技術を学ぶ上で欠かすことのできない学校飼育動物や、MGL学園附属ペットショップ実習施設を利用している等、施設設備が充実している。②学校の目的を達成しやすい教員を採用・育成している。③日本国内外を問わず、ペット業界の一流のプロが特別授業を行うことにより、学生が目指す人物像が具体的になりやすい。④理事長がペット業界の代表団体である全国ペット協会で理事をしているため、ペット業界との連携が良く取れており、教育課程が当該職業分野の期待に応えるものとなっている。⑤専門学校には珍しく、学生全員にタブレット端末を配布しているため、きめ細やかな生徒指導ができる。

(改善を要する点)

改善を要する点は特にないが、少人数制の専門学校の模範となれるよう更なるレベルアップをしたい。

(自己評価概要)

本校は専修学校設置基準および関連書法令等が定める要件を上回る教員数・校地校舎の面積・施設等を有しており、当然、動物看護師統一認定機構の基準にも適合している。さらに、動物の技術を学ぶ上で必要な学校飼育動物やMGL学園附属ペットショップ実習施設や動物看護実習室、トリミング室、室内ドッグトレーニング室、パソコン室など豊富な実習施設の他、講義室や学生ホール、学生ロッカー室も完備されており、有効活用されている。その上で、本校の教員は、本校の出身者が多いため、MGL学園の教育理念や教育方針を良く理解をしており、なおかつ社会の現場で活躍してきたプロであることから、技術・知識を学生達に身につけさせるだけではなく、ペット業界で活躍していくための人物像などについても指導していくことができる。また非常勤の講師もそれぞれの分野で活躍する一流の講師であり、例えば独協医科大学名誉教授の篠田教授が動物看護の授業を担当するなど、学生は一流の講師たちからより専門的な教育が受けられるようになっている。さらに通常の授業以外に特別授業として、2017年10月にビクター・ロサード氏をMGL学園に招聘して講演をしていただいた。ビクター氏は、グルーマーのアメリカ代表である「グルームチームUSA」のメンバーであり、世界大会でナンバーワンである「BIS」を何回も受賞した、世界を代表するグルーマーである。ビクター氏に限らず、毎年何回もペット業界の一流の講師をお呼びして特別授業ができるのも、MGL学園の国内外を問わずペット業界との深い人脈があるからである。それは、MGL学園の理事長が、ペット業界の代表団体である全国ペット協会の役員をしており、ペット業界との連携が良く図

れているからであり、今後もMGL学園の強みを活かしたカリキュラムの編成を行いたい。

学生の指導に関しては、全国ペット協会主催のペット業界合同就職説明会への参加や、MGL学園主催のペット関連企業合同就職説明会を開催するなど、学生がペット業界の大手企業や待遇の良い企業に就職しやすくなるよう取り組んでいる。また大手企業から要請を受けて個別企業説明会を開催することもある。進路相談においても担任が中心となって面談したり、専門学校では珍しいが学生全員にタブレット端末を配布しているため、Gメールを活用して随時相談や助言を行っているほか、就職専門の職員による面接練習などの取り組みも行っている。さらに、担任、就職担当の職員の垣根を越えて、教職員全体で就職について状況の共有や学生へのサポートもおこなっている。よって、学習を進める上での履修指導等が適切に行われている。

[3] 職業実践専門課程の認定要件の適合性

評価項目	評価
3-1 教育課程編成委員会等の委員構成が適切であり、委員会が適宜開催され、その結果が教育課程の内容に反映されているか。(なお、教育課程の編成内容に関しては、基本的な観点 2-2～2-5 において評価する。)	5
3-2 企業等と連携した実習・演習等が適切に実施され、教育課程の中で有効に機能しているか。	5
3-3 教育活動等に関する情報が、ホームページ等により適切に公表されているか。	5

(優れた点)

①教育課程編成委員会が職業実践専門課程の認定要件をクリアしていることは勿論、この制度を生かして、実際にカリキュラムの編成に反映され、企業・業界が求める人材を育成できる体制が作られている。

②企業と連携した実習・演習は、多くの企業が参加してくれているため、より実践的なものとなっている。

③カリキュラムの編成や企業との連携がうまくいっているので、就職が良い。

④教育活動に関する情報公開が適切にされているので、入学希望者が安心して進学でき、学生募集が良い。

(改善を要する点)

改善を要する点等は、特にない。

(自己評価概要)

教育課程編成委員会は職業実践専門課程の認定要件で定められている委員構成に則って構成されており、委員会は年2回以上開催され、その内容が適切に教育に反映されている。教育課程編成委員会を毎年開催していることにより、関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携による、カリキュラムの作成・見直し等を行うことができた。

企業と連携した実習は、エル動物病院・新田動物病院ペットスクエア・DOG&CAT Waltz・佐々木法律事務所・アニー英会話教室・松寿園(ヒューマンアニマルボンド)等、多くの企業と連携して実践的な教育を展開している。教育課程の中で有効に機能しているため、企業に求められる人材が育成できている。その証拠に、MGL学園で就職説明会を行うと企業に連絡すると、多数応募があるので、企業が本校の学生を求めていることがわかる。

教育活動に関する情報公開は、パンフレットはもちろんのこと、ホームページに適切に公開されており、世界で活躍する卒業生や資格取得実績なども公表されている。

[4] 内部質保証

評価項目	評価
4-1 学生受入の状況、教育の状況および成果や効果について、自己点検・評価および学校関係者評価が適切かつ組織的に行われているか。その際、学生からの意見、学外関係者の意見や専門職域に係わる社会のニーズが、自己点検・評価および学校関係者評価に適切な形で反映されているか。	4
4-2 自己点検・評価および学校関係者評価の結果が学校内および社会に対して広く公開されているか。	5
4-3 自己点検・評価および学校関係者評価の結果がフィードバックされ、教育の質の改善・向上のための取組が組織的に行われ、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。	4
4-4 企業等と連携した組織的な教員研修（ファカルティ・ディベロップメント）および職員研修（スタッフ・ディベロップメント）が適切に実施され、それらが教育の質の改善・向上に有効に機能しているか。	4

（優れた点）

①自己点検・評価および学校関係者評価が毎年適切に実施され、改善の取り組みがおこなわれ、機能している。

②自己点検・評価及び学校関係者評価は、だれでも見られるようにホームページで公開されている。

③教職員研修が毎年計画・実行されていて、成果を上げている。

（改善を要する点）

可能ならば、企業や卒業生の意見を組織的に聴取する仕組みの構築が望まれる。

（自己評価概要）

自己点検・評価および学校関係者評価は毎年適切に実施され、学校関係者の意見や業界からの要望なども反映されている。学生受入状況、教育状況など、ホームページに詳しく記載されている。

自己点検・評価および学校関係者評価は毎年開催され、評価結果を誰もが見ることができるようホームページで適切に公開されている。

自己点検・評価および学校関係者評価では常に改善にむけて課題をみつけ、改善方針を定めて、それを事業計画に反映して毎年の改善目標とし、実行している。

企業と連携した教職員研修は、本校教職員研修計画書のとおり、企業研修や海外研修を毎年行っている。その他、ペット業界の第一人者や世界で活躍をしているトップトリマー、また動物の遺伝病や繁殖学の世界的権威の先生をお招きして講習会を開いて頂き、技術・知識の向上に役立っている。また、専門の講師を招いて教職員のマナーアップ向上を目的としたセミナーも開催し、さらに、日本能率協会の研修や教職員ミーティングでの理事長のスピーチ等も行われており、教職員1人1人のスキル向上を図っている。

[5] 学修成果

評価項目	評価
5-1 単位修得、修了状況、資格取得の状況等から判断して、意図している学修成果があがっているか。	4
5-2 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。	5
5-3 修了後の進路の状況等の実績や成果から判断して、意図している学修成果があがっているか。	4
5-4 修了生や就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。（意見の聴取方法やその仕組みの完成度合いも含む）	3

（優れた点）

①タブレット端末を学生全員に配布しているため、特に技術を習得することに関し、タブレットを用いた学習の効果が現れ、資格試験の合格率が高い。

②動物看護師統一認定試験の合格実績。

③学生の満足度が高いため、退学率が低く、卒業生が当該専門分野のペット業界へ就職する割合が高い。

④卒業生が世界で活躍している。

⑤企業の採用担当者や卒業生の評価から、当該職業分野の期待に応える職業実践的な学習効果があがっている。

(改善を要する点)

今までは、卒業直前に学生達に受講講座の効果や受講した講座の教材、カリキュラム、指導内容について、総合的に評価をしてもらったアンケートを実施してきた。しかし、1つ1つの授業評価というよりは学校全体の学びに対しての評価だったため、今後は科目ごとにアンケートを取り学生に評価してもらう方が、よりきめ細かい聴取ができ、それが学習成果向上に繋がるのではと考える。より良く改善するため、学生が協力してくれるのであれば、授業科目ごとのアンケートをとってみたい。

(自己評価概要)

ペット業界との産学連携の強化により、就職率の向上が図られ、さらに待遇の良い企業に多くの学生を送り出すことができている。また、タブレット学習を取り入れ、写真や動画を撮ることにより、プロ(教員)の技術と自身の技術を比較することができるため効率的に技術を身につけることができ、トリミングやドッグトレーニングなど技術を要する資格試験は、高い成果を挙げることができている。また担任制やGメールを活用しての学生1人1人への決め細やかなフォロー体制もあり、退学率も数パーセントと低く、入学したほとんどの学生が動物のプロとして巣立っていった。

学生の満足度について、受講講座の効果や受講した講座の教材、カリキュラム、指導内容等、総合的に評価するアンケートを卒業前に実施している。このアンケートの結果からは、学生の満足度は高く、おおむね意図している学修成果があげられていると評価できる。

卒業生の活躍という観点からは、学修成果があがっていると大いに実感できる。ほとんどの学生が当該専門分野であるペット業界に就職している。その中でも大手企業や待遇の良い企業に就職している学生が多く、世界で活躍する卒業生は、グルーミングのオリンピックと言われる「ワールドグルーミングチームチャンピオンシップ」に日本代表として出場しベスト8を獲得するなど、多くの卒業生が活躍している。

本校は学生の満足度が高いためか、卒業生が毎日と言ってよいほど学校に遊びに来るので、卒業生が来校するたびに現状を聴取している。大手企業や待遇の良い企業に就職している学生が多いため、好待遇で就職して良かったという話や、昇進して要職に就いたなどうれしい話をよく聞く。また卒業生の活躍が企業にも評価され、個別で企業説明会をさせて欲しいという声やMGL学園主催の就職説明会に呼んで欲しいという企業からの要請も多数うけている。このようなことから学校の目的に合った、当該職業分野の期待に応える職業実践的な学修効果があがっていると考える。

以上

太田動物専門学校

平成 29 年度 自己点検・評価委員会

委員長 篠田 恵利 (校長)

委員 野口 哲 (教務主任)

委員 熊谷 真美 (教員)